

テーマ： 図書館員のイメージと「図書館の自由」 ～学校図書館を中心に

「図書館員」「司書」という仕事は一般に(世間では)どのような職業としてイメージされているか? メディアにみる図書館員のサービスに注目し、「図書館員」という職業のイメージについて、事例研究をふまえて、「図書館の自由」という観点から論じてみたい。

1. 研究の目的と方法 ～漫画を対象としたメディア研究～
2. 図書館員の人物像 ～図書館員ってどんな人?～
3. 図書館員のサービス ～図書館員ってどんな仕事をするの?～
4. 事例研究「児童・生徒のプライバシーと学校図書館～図書館員は利用者の秘密を守るべきか?～」
5. まとめ

## 1. 研究の目的と方法

### 1.1 研究の目的

「看護婦」＝「白衣の天使」、「先生」＝「聖職者」など、その職務や人物像において何らかの定着したイメージを持つ職業がある。「図書館員」「司書」という職業は、外の世界からどのように見られ、理解され、評価されているか、「ステレオタイプ」というものはあるのか、そのステレオタイプは好意的なものか?、事実に反していないか?、ということは、図書館員という仕事に従事する人間であれば、誰しも興味がある事柄だろう。本研究の目的は、図書館員の人物像、職業観、職務内容に注目して、そのステレオタイプを調査し、図書館員としてのあるべき姿とのギャップを考察することで、図書館界の課題を考察することにある。

### 1.2 研究の方法

図書館員のイメージを知るための方法としては、第一にアンケート調査という方法がある。しかし、この方法では調査を開始した時点からの結果しか得ることができない。そこで、用いられる方法が、メディアの中から図書館員のイメージを探る方法である。例えば、小説やテレビドラマ、映画などの表現作品の中で、図書館員がどのように描かれてきたか、ということ調査し、メディアからどのような図書館員像が発信され、それを読者や視聴者がどのようにとらえてきたか、ということ考察する。こうしたイメージ研究は、現在、映画やテレビドラマといった映像メディアを中心に研究されているが、若年層に大きな影響力を持つ「漫画」というメディアはあまり取り上げられていない。過去への遡及的な調査が比較的容易であり、大衆への影響力を持ち、しかも、作者のイメージがストレートに反映されやすい漫画というメディアは、本研究において好材料となるメディアである。以下、「漫画」メディアにみる図書館員のイメージについて考えてみたい。

- 1) 図書館員はどのような人物、職業としてイメージされているか?
- 2) 過去に遡ることができるメディア研究
- 3) 若年層に大きな影響力を持つ漫画を調査対象とする

## 2. 図書館員の人物像 <配付資料2参照>

1960年代以降に発表された漫画作品(国内作品のみ)1547作品中、図書館員の登場人数は合計407人となっている。資料を手がかりに、図書館員の人物像について考えてみよう。

### 2.1 性別のイメージ ～図書館員は女性?男性?～

表1から分かるように、漫画の中の図書館員の過半数は女性であり、全体の7割近くを占めている。この結果を館種別にみると、学校図書館ではさらに女性の比率が高くなり、8割を越える結果となった。漫画作品の世界では、「学校図書館員＝女性」というイメージの定着をはっきり示している。

また、図書館の仕事＝女性的な仕事＝男性的ではない仕事と解釈すれば、「力仕事ではない」「体力のいらぬ仕事」「おとなしい仕事」といったイメージも読み取ることができる。

表1 館種別図書館員の性別

	男	女	不明	合計	女性比
公共	58	109	4	171	65.3
学校	23	113	7	143	83.1
大学	11	31	1	43	73.8
国立	11	8	6	25	42.1
専門	15	4	0	19	21.1
不明	3	2	1	6	40.0
合計	121	267	19	407	68.8

- 1) (どちらかという)図書館員は女性である
- 2) 学校図書館員は女性である。
- 3) 図書館員は女性的な職業である。

## 2.2 性格・職業観

「図書館員」が漫画作品に描かれる際、自分の仕事に対してどういう職業観を持ち、どのような性格の人物として描かれるのだろうか？ 以下は 407 人中、図書館員が主人公となっている作品から、それぞれの性格、職業の特徴をまとめ、傾向ごとにグループ化したものである(一部のみ)。

表2 図書館員の人物像(性格・職業観)

イメージ	性格・職業観	作品	人物設定	館種
図書館員は「平凡で安穩な職業」である	面白みのない職業／健康に不安を抱えていてもできる仕事／体力的に楽な仕事／暇な仕事／不自由な仕事	『緑の頃私たちは』	死を宣告された図書館員。余生を図書館員として過ごす。	公共
		『ひらひら』	退屈で不自由な仕事が終わると、夜毎、着飾って街に出かけてナンパ。「素直になりたい、風になりたい」と思っている。	公共
		『緑の家』	平凡な毎日にうんざり。部屋でこっそり大麻を栽培してスリルを求める。	公共
		『セーラー服心中』『5月の風は優しくして』ほか	カウンターであくび、いつも居眠りをしている。「おじさん、またねてる……」	学校
図書館員は「仮の姿」である	昼間は地味な図書館員、しかしその正体は？／いつ辞めてもいいと思っている／図書館員の仕事自体にはあまり興味はない	『天才柳沢教授の生活』	本名も経歴も一切謎の人気作家「新井田子」。	大学
		『マジカル・ブルー』	風の魔女、魔女名はダイアナ。難事件を解決。	大学
		『ココロ図書館』	プロフィールを秘密にしている人気作家「ひめやきりん」。	公共
		『2HEARTS』	難事件に立ち向かう操律師。「操律師なんて聞こえはいいけどそれはウラの話、表ではこーやって人並みに働かなくちゃいけないなんてね」とぼやく。	学校
		『恋とマシンガン』	覆面作家(ノンフィクションライター)。学校の不正を暴く。	学校
		『ハトの旋律』	学内の不正を暴くため、図書館員(助手)として潜入。エスパー少女。	学校
図書館員は「謎の人物(ミステリアス)」である	何を考えているか分からない／あやしい	『ポケットに聖書を』	世界中の子供を本の中に閉じこめながら旅する移動図書館員。魔物	公共
		『転生人魚』	謎の図鑑を貸し出し、利用者を殺害	公共
		『悪魔の花嫁』	嫉妬に狂い愛人の男性館長を殺害。遺体を暖炉で焼く	公共
		『幻境図書館』	靈感が強い図書館員が多数登場	公共
		『夜の夜中の向こう側』	異界への案内役	学校
		『キャンドルにお願い』	長い髪、吸い込まれるような瞳、足音が聞こえない。「フンイキありすぎ」	学校
図書館員は「無愛想」「一人が好き」「偏屈」である	「根暗」「陰気」／「我が道を行く」タイプ／他者との接触をできるだけ避けて生活することができる仕事として図書館員を選ぶ／世捨て人のイメージ／変わり者	『老年期の終わり』	近未来の移民惑星住民。人類が地球に戻る日、一人惑星に居残ること(=死)を決意する老人。	国立
		『図書館であいたい』	洋服のセンスが悪く、「図書館の黒イモリ」と揶揄される。しかし、本人はまったく気にしていない。変わり者	大学
		『恋とマシンガン』	「ガキは嫌い。生意気だし、うるさい」というセリフあり。でも学校図書館員	学校
		『雑居時代』	「換気といっってはやたら窓を開けたがる司書のおばさん」。図書室は学内で「ツンドラ地方」と呼ばれている。	学校
		『ハーフ&ハーフ』	ある事件をきっかけに心を閉ざした男性職員。仕事はできるが、無愛想。	公共
		『恋人もどき』	男性利用者に誘われるがとりつくシマもない。蔵書検索を頼まれるが「ありません」と一言。利用者からは「愛想がない」と言われる。	公共

女性図書館員は「地味」(暗い)で、「恋に臆病(奥手)」「男性に縁のない職業」である	ライフスタイルとして「結婚しない」ことを選択/失恋のショックから恋なんてしないと決意して図書館員になる/ただし、全く正反対のイメージの人物が描かれる場合も	『エラリーによろしく』	「司書のハイミス」というセリフあり。	学校
		『教師によろしく』	「ホモ系ジュニア小説」ばかりを収集している。	学校
		『本当のことを言おうか』	純粋な女性。好き男性と恋人の会話を聞いて書架の影でうっとりするだけ。	公共
		『妖しのセレス』	男子生徒にモテモテの主人公に嫉妬し、ねちねちと嫌みを言う。	学校
		『実験人形ダミーオスカ』	極端にやせた女性。さらしを巻いて体型を隠している。地味な女性も登場。	公共
		『不思議の国のミスアリス』	恋の傷が癒えない女性。もう二度と恋なんてしないと思っている。	公共
		『わたしちの結婚』	芸能人の妹にコンプレックスを持つ女性。男性に誘われ、徐々に心を開く。	公共
<よいイメージ>すてきな女性	主人公(登場人物)のあこがれ/恋のライバル/大人の女性	『あじさい色の雨の中』	主人公の恋敵。「図書館のお姉さん」として生徒から慕われる。結婚してすぐやめる。	学校
		『図書室の彼』	主人公が思いを寄せる男子生徒の恋人。割り切ってつきあっている。	学校
		『DESIRE』	主人公のあこがれ。大人の女性	学校
		『恋する毛玉』	司書水島麻子。主人公の恋敵、キレイな人、いい人という評価あり。	公共

### 3. 図書館員のサービス

世の中の人には、「図書館員」と聞くと、どのような職務内容の職業をイメージするのか？ 漫画作品において、図書館員がメディアの中で果たす役割を考えることで、図書館員の職業イメージを考えてみよう。下表は漫画作品に登場する 407 人の図書館員の主な行動・サービス(合計 534 回)について集計した結果である。

表3 図書館員のサービス・行動 (館種別/合計順)

サービス・行動	公共	学校					大学	国立	専門	不明	合計
		高校	中学	小学	不明	合計					
利用者を注意	43	47	7	0	1	55	9	1	1	1	110
貸出	49	17	4	1	1	23	10	0	2	1	85
カウンター当番	31	14	3	0	0	17	10	2	1	1	62
排架・書架整理	27	12	1	0	0	13	3	0	1	0	44
利用記録の調査(不注意による漏洩・個人的利用を含む)	13	14	1	1	0	16	8	1	0	0	38
蔵書検索・所蔵調査・排架場所の案内	18	6	0	0	0	6	5	3	1	2	35
情報サービス	8	0	0	0	0	0	9	5	9	0	31
閉館準備	13	5	4	0	0	9	3	0	0	0	25
図書委員の指導	0	14	4	0	0	18	0	0	0	0	18
資料の受け渡し	5	2	0	0	0	2	2	3	3	0	15
資料収集	5	3	2	0	0	5	2	0	1	0	13
読書案内・相談	6	0	0	0	0	0	1	0	0	1	8
資料整理	2	5	0	0	0	5	0	1	0	0	8
予約・リクエスト	5	2	0	0	0	2	0	0	0	0	7
同僚を注意	2	5	0	0	0	5	0	0	0	0	7
相互貸借	3	0	0	0	0	0	2	0	0	0	5
図書委員を注意	0	3	2	0	0	5	0	0	0	0	5
入館手続き・審査	2	0	0	0	0	0	0	2	0	0	4
複写	1	0	1	0	0	1	0	1	0	0	3
図書館便りの作成	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
レフェラルサービス	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
読書調査	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
読み聞かせ	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
催し物の企画・準備	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
開館準備	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1

利用方法の案内	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
清掃	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
図書館実習生の指導	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	242	151	29	2	2	184	64	19	19	6	534

### 3.1 図書館員は「利用者を注意する」人物

漫画作品の中で最も多く描かれている図書館員のサービス・行動は「利用者を注意する」行為である。数ある図書館サービスの内、全体比で約3割、学校図書館については4割にのぼった。この数値は、近年注目されている「情報サービス」よりも多い数値となっている。

利用者が館内で引き起こす何らかの問題行動に対して、図書館員が「注意する」という行為は、「利用指導」「利用者教育」という面から見て、重要なサービスの一つである。ただし、ここで注意しなければならないことは「利用者を注意する」という行為が、右図のようなパターンで描かれているということである。つまり、図書館員が「利用者を注意する」場合には、以下のような表現パターンが漫画作品の中で定着しているのである。

- 1) 登場人物が集まって図書館で勉強
- 2) いつの間にか口論・喧嘩が始まる(声が大きくなる)
- 3) 職員が大声で「静かにしなさい!」「ここをどこだと思っているんですか!」
- 4) 利用者を図書館から追い出す

こうした図書館員が描かれる上での問題点としては以下の3点が挙げられる。

- 1) 「利用者を注意する」という行為のほぼ全てが、「諭す」「叱る」という行為ではなく、感情的に「怒る」という行為に結びついていること(=ヒステリック、恐い印象を与える)
- 2) 「利用者を注意する」という行為の多くが、「顔を真っ赤にして」「利用者よりも大きな声で」「つばを飛ばしながら」「鼻息を荒くして」という行動を伴うこと(滑稽な印象を与える)
- 3) 利用者を図書館から追い出すという行為によって終了すること(必ずしもサービスとして、つまり「利用者教育」「利用指導」として描かれているわけではない)

- 1) 図書館員の最も重要な仕事は館内の静寂を守ること(=利用者を注意すること)である
- 2) 図書館員は恐い、うるさい人物である
- 3) 図書館員は滑稽な人物である

#### (2) 情報の専門家というイメージは希薄である

最近、注目されている情報サービス(レファレンスサービス、情報検索サービス)について注目すると、漫画作品の中では、あまり多く描かれているわけではない。公共、大学、専門図書館において若干見られるが、学校図書館に限ってみると「ゼロ」となっている。

もちろん、漫画作品内で、ストーリー上の必然性がなければ、情報サービスが描かれないのは当然である。しかし、例えば『踏まれた天使のように』では、図書館の情報サービスを利用すべきシーンでも、図書館員が登場してくることはない。学校図書館というのは、本を探したり、本の情報を教えてもらうという点については、全く期待されておらず、というか、「本屋」(書店員)よりも頼りにされない存在として認識されていることがわかる。

- 1) 学校図書館員は情報の専門家ではない

(3) 図書館員は「利用者の秘密を漏洩する」人物である

「図書館の自由に関する宣言」(日本図書館協会, 1979)<sup>1</sup>、「図書館員の倫理綱領」(日本図書館協会, 1980)<sup>2</sup>に明記されているように、「すべての図書館員」は、「館種・館内の地位、職種及び司書資格の有無にかかわらず」、図書館利用者に関する以下の情報を、利用者に無断で、第三者に開示してはならない。

- 1) 貸出記録 (いつ借りたか、どのような本を借りたか、いつ返却されるか?)
- 2) 読書傾向 (どのようなジャンルの本を好むか?)
- 3) 館内利用記録 (レファレンス記録・複写記録・AV 資料利用記録など)
- 4) 来館記録等の情報 (来館日・来館頻度)
- 5) 利用者記録 (氏名・住所・職業・家族構成等)

なぜなら、個人の利用記録が簡単に開示されてしまうような図書館であるとすると、利用者は下記のいずれかの行動をとることになる。

- 1) 図書館を利用しない
- 2) 読んでいることを秘密にしたいような本は図書館では利用しない

こうした行動を利用者に選択させる図書館では、結果として利用者の「読書の自由」(=知る自由)を大きく侵害することになる。よって、図書館員は利用者の読書行為に対して、利用者が援助を求めない場合は、極力「干渉しない」ことを前提としてサービスを行わなければならない。しかしながら、漫画作品の中では、図書館員が利用者の利用記録を無断で第三者に開示する場面が数多く描かれている。利用記録を漏洩する図書館員が登場する作品について、いくつか紹介してみよう。

<表4 利用者の秘密を漏洩する図書館員>

作品名	漏洩の状況	問題点	問題性
『ALEXANDRITE』	アルバイト職員は、主人公に「中退した学生も含めた名簿とか見られないかな」と頼まれる。「そういう記録は(中略)プライバシーに関わることだし」と一度は断るが、結局、専任職員に内緒でその記録を利用者に渡す。プライバシーを守ることと図書館職員の義務とは結びつけられていない。	利用者記録の漏洩	★★★ ★
『図書館であいたい』	アルバイト職員が、同僚と、同僚とつきあっているらしい利用者の貸出カードから、その個人データを無断で閲覧し、名前・出身校を調べる。職員であっても、利用者データを個人的な興味で閲覧することは許されないはず。	利用者記録の漏洩(個人的利用)	★★★ ★
『野生の王国』	興味を持つ利用者の個人情報(氏名等)を貸出カードをつかってチェックする女子職員。利用者データを自由に閲覧できる立場であるからこそ、利用者の氏名や住所を個人的に利用することは許されない(個人情報を扱う立場のモラルが問われる)。	利用者記録の漏洩(個人的利用)	★★
『夢幻伝説タカマガハラ』	カウンターに置いてあった本を借りて帰る主人公。しかしその本は、実は他の男子生徒が借りるつもりだったもの。その男子生徒は激怒し、「ここにあった本は？」と問うと、カウンターの職員は「あら、いま借りていったけど」「五年一組の若狭っていうコよ」と答える	貸出記録の漏洩	★★★ ★★

<sup>1</sup> 「図書館の自由に関する宣言」第3 図書館は利用者の秘密を守る

- 1) 読者が何を読むかはその人のプライバシーに属することであり、図書館は、利用者の読書事実を外部に漏らさない。ただし、憲法第35条にもとづく令状を確認した場合は例外とする。
- 2) 図書館は、読書記録以外の図書館の利用事実に関しても、利用者のプライバシーを侵さない。
- 3) 利用者の読書事実、利用事実は、図書館が業務上知り得た秘密であって、図書館活動に従事するすべての人びととは、この秘密を守らなければならない。

<sup>2</sup> 「図書館員の倫理綱領」第3 図書館員は利用者の秘密を漏らさない。

図書館員は、国民の読書の自由を保障するために、資料や施設の提供を通じて知りえた利用者の個人名や資料名等をさまざまな圧力や干渉に屈して明かしたり、または不注意に漏らすなど、利用者のプライバシーを侵す行為をしてはならない。このことは、図書館活動に従事するすべての人びとに課せられた責務である。

『君は僕の太陽だ』	いつも読んでいる本が書棚にないことを不思議に思った利用者。職員に問い合わせると、「ああ、あの本なら栗山先生が借りていきましたよ」と一言。	貸出記録の漏洩	★★★★ ★★
『卒業おめでとう』	ある教員に思いを寄せる女生徒の問い合わせに、「井萩先生ならよくみえてるわよ、火曜や木曜が多いかな」と答える学校図書館の職員。	来館記録の漏洩	★★★★
『金田一少年の事件簿』	ある殺人事件を調べている主人公。貸出カードのない本を見つけ、その本の借り主を職員に尋ねる。「その本でしたら、3週間前から3年生の桜樹るいさんが借りているはずですよ」と職員。	貸出記録の漏洩	★★★★ ★★
『教師にやらせな!』	男性生徒に思いを寄せる女性教師。ライバルの女生徒がどのような人物なのかと職員(司書教諭)に尋ねると、「文芸部の子でよく図書室に来る」「なにせ、マルセル・プルーストの”失われた時を求めて”を全巻読破している本格派だし」と職員。利用者の読書傾向を漏洩。	貸出記録の漏洩	★★★★ ★★
『夢の外は悪魔の森』	借りたい本が書架に見当たらなかったため、職員に尋ねる主人公。職員は「茂原教授に貸出中」であることを教える。利用者は早速、茂原教授の研究室へ。	貸出記録の漏洩	★★★★ ★★
『幻境図書館』	髪切り魔を探し出すために、知人と共に、関連する本の貸出データを調査する主人公(司書)。「個人情報を利用するなんて、図書館司書のやることじゃないなと思って……」とためらうが、司書のおかげで事件は解決する。(その程度の職務倫理としてしか認識されていない)	貸出記録の漏洩	★★★★ ★
『ドラねこ☆フリーング』	貸出業務を終えた学校図書館職員。カウンターに忘れられた図書カードを見つけ、同じクラスの女生徒に渡すように頼む。書名が書かれたカードから借り主を推測し、「沖田さんにわたして」と頼んでいるため、誰がなにを借りたか、ということ第三者に漏らしていると思われる。	貸出記録の漏洩	★★★★ ★★
『探偵日記』	探偵の主人公は、事件解決のため、図書館の本を破った人物を捜すために、図書館の貸出データを調べること。コンピュータシステムを解説してほしい、と頼み、貸出データの画面を表示させる。職員は「秘密保持の原則」があるため見せられない、と答えるが、主人公は一瞬映った画面をのぞき込み、その氏名、住所を咄嗟に覚える。 <u>貸出記録が残るシステムの紹介について全く問題意識がない。</u>	貸出記録の漏洩	★★★★ ★★
『転生人魚』	主人公が借りた本の返却が遅れていたため、職員自ら利用者の自宅まで訪れ、無断でその恋人から本を返してもらう。	貸出記録の漏洩	★★★★ ★★
『図書室の彼』	好きな男子生徒の図書カードを拾って、同じ本を借り続ける主人公。貸出データから、主人公が同じ本を借りていることに気づく男子生徒。隣りにいる職員は貸出データを勝手にのぞき見る男子生徒を注意をしない。	貸出記録の漏洩	★★★★ ★
『ハーフ & ハーフ』	館内で司書が殺害される。推理を始める男性司書。警察の捜査員に対して、毎日やってきては、ジャンルがばらばらな本を借りて帰るおかしな利用者たちのことを指摘し、貸出記録から彼らが本を借りる際には必ずある男性司書が座っていることを指摘。覚醒剤の密売に図書館の本の受け渡しを利用していたことを指摘する。	貸出記録の漏洩	★★★★ ★

『ドーナツボックス』	夏休み。プルーストの『失われた時を求めて』を読破することにした主人公。しかし、いつ来ても第1巻だけない。問い合わせてみると、「バカが読めもしないのに借りては次々と延滞するもんですから」と職員。	貸出記録の漏洩	★★★★
『papa told me』	延滞を通知するための督促状をはがきにて送付。利用者の娘がそれを見て父親が延滞した事実を知ってしまう。書名が書かれているかどうかはわからないが、延滞したという事実そのものも利用者のプライバシーである。	貸出記録の漏洩	★★
『モンキーターン』	カウンターに本を返しに来た利用者に対して、その延滞を大声で怒鳴り散らす。近くにいた友人はその事実を知り、あきれ顔。延滞した事実を第三者に知られてしまうことは利用者を注意する方法として不適当。	貸出記録の漏洩	★★
『恋とマシンガン』	延滞した事実を生徒の前で(無断で)他の教員に答えてしまう司書が登場。相手が教員とはいえ、必要がなければ生徒が延滞したという利用事実を教えることは許されないのでは？(生徒の利用マナーを担当に知らせてよい?)	貸出記録の漏洩	★★
『妖しのセレス』	カウンターの職員(司書教諭)に本の所在を尋ねると、職員は「貸出中」という素っ気ない返答。「誰ですか？ ちょっと急ぎで調べたいんで」と主人公が食い下がると、職員は不機嫌な表情で、「聞いてどうすんの？ また男子生徒だったら誘うってんじゃないでしょうね!」。結果として利用記録は漏洩していないが、利用者の問い合わせを断った理由は「プライバシーを守る」ためではなく、「嫉妬」。	貸出記録の漏洩(未遂)	★★★★
『黒の輪舞』	ある本が書架から消えていたことを不信に思った主人公。職員にその本の帯出者を尋ねると、職員は「貸出禁止ですよ、誰かが借りたなんてことは……」と答えるだけで、「貸出記録を教えられない」ということの説明はない。	貸出記録の漏洩(未遂)	★★
『そっとゆびきり』	主人公と仲違いしている孫(アルバイト職員)との仲を取り持つために、「きのうきたんじゃよ、万葉集をかえしにな」と伝える。ストーリー上必要な場面ではあるが、図書館職員同士とはいえ、個人的な理由で利用した資料の内容を伝えることは許されない。	貸出記録の漏洩(個人的利用)	★★★★ ★
『聖・三角形』	不倫相手の大学教授と話を合わせるために、彼が借りた本を調べ、片っ端から読みあさる女性職員。個人的な理由で利用者の読書傾向を調べることは許されない。	貸出記録の漏洩(個人的利用)	★★
『女ともだち』	「図書館のカードって精神のカルテカードに似てると思わない？」と言いながら利用者の貸出カードを、必要もないのにのぞき見る女性職員。同僚職員は「あんまり明るい趣味とは言えないわねえ」と言っているが、注意はしない。図書館職員が退屈しにぎに利用者の借りた本の記録から個人の中を勝手にのぞき見していると誤解されるおそれあり。	貸出記録の漏洩(個人的利用)	★★★★ ★
『紅茶王子』	視聴覚室の利用を申請し、利用中とのことで断られた生徒から「何に使っているんですか？」と問われた第2図書室・視聴覚資料室の職員。「合同祭の反省会よ、三校の執行部が集まっているの」と、利用目的と利用者グループ名を答える。	館内利用記録の漏洩	★★
『本当のことを言おうか』	死んだ利用者の図書館内での行動をその弟に伝える女性アルバイト職員。「本を読むより本をながめる方が好き」ということも広く考えれば読書傾向の一つである。	館内利用記録の漏洩	★★

『ゴルゴ13』	国立国会図書館の職員。調査に来た議員に尋ねられ、同じ資料を少し前に利用していた人物の風貌を詳細に答える。	館内利用記録の漏洩	★★★ ★★
『MONSTER』	ある利用者の図書館での行動を他の利用者に教える司書が登場。後の場面ではさらに利用していた書名をも伝えていたことが判明。	館内利用記録の漏洩	★★★ ★
『吉沢ツムリ事務所』	館内での利用行動を他の利用者に漏洩。行動そのものは「知る自由」とは無関係(好きな人を見つめる)だが、プライバシーに関わる行動であり、図書館内での行動にかわりはない。	館内利用記録の漏洩	★★

当然ながら、漫画の中にこうした図書館員の行動が数多く描かれるということは、一般には「図書館の自由」という考えがほとんど理解されていないということの意味している。逆に言えば、「図書館員＝利用情報を教えてくれる人」とイメージが定着しているということでもあるだろう。漫画の中で、「図書館員は利用記録を守る人」ではなく、むしろ「教えてくれる人、ばらす人、漏洩する人」と考えられている。こうしたイメージは、図書館員にとって、その専門性を全面的に否定するものであり、図書館員各自が「図書館の自由」という理念を正しく理解し、さらなる(正しい)実践、そして外に向けてのPRが必要である。

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 図書館員は利用者の秘密を教えてくれる人物である</li> <li>2) 図書館員は利用者の秘密を漏洩する人物である</li> </ol> |
|--|

#### 4. 事例研究「児童・生徒のプライバシーと学校図書館

～図書館員は利用者の秘密を守るべきか?～

以上のように、図書館員の専門性を支える「図書館の自由」という概念は、特に「利用者の秘密を守る」ということについて、漫画メディアの中ではほとんど理解されていない。漫画作品の中でこうした物語が繰り返し描かれるということは、読者がそうした物語を受け入れているということの意味しており、一般的なイメージとして、「図書館員は利用記録を教えてくれる人」という考えが定着していると思われる。ではなぜ、図書館員は「利用記録」「利用者の秘密」に対して、図書館員の専門性とは全く反対の職業としてイメージされてしまうのか?

その原因の一つとしては、「図書館の自由」という概念の抽象性のため、図書館の現場において、「図書館の自由」「利用者の秘密を守る」ということが本質的に理解されていないのではないかと、ということが挙げられる。そもそも、「図書館の自由」は、館種を問わず「すべての図書館員」を対象とするため、館種ごとの事情によって、「利用者の秘密」とはどこまでを指すのか、「利用者を守る」とはどのような方法で行われるべきなのか、ということが分かりにくい(具体的に明記されていない)という側面がある。特に、学校図書館について、「図書館の自由」との関係性を考えると、「利用者」つまり「児童生徒」の利用記録を教育サービスとの関わりにおいて、どのように扱うか、という難しい問題が見えてくる。最後に、漫画作品『やってらんねえぜ』を事例として、学校図書館と「利用者の秘密」との関係について考えてみよう。

<詳しくは配付資料3参照>

<p>自分がH I Vに感染しているのではないかと密かに心配する男子生徒(高校生)。図書室で HIV 関連の医学書を調べる。男子生徒を書架の影からたまたま見かけて、その様子を不審に思う司書(司書教諭?)。「何を調べたいの?」と声をかけると、男子生徒は「健康関連の本はどこですか?」とだけ言って、その場を去る。男子生徒の様子を心配する司書(司書教諭?)。後日、保健室に本を届けた際に、養護教員に男子生徒の最近の様子を聞き、「どうもエイズについて調べていたようなのよ」「ただの興味本位って感じじゃなかったから気になって」と相談する。</p>
--

<本日はどうもありがとうございました。次ページのアンケートに御協力いただければ幸いです>



## ＜学校図書館員のみなさまへのアンケート＞

実施日：平成13年8月10日（金）  
作成者：沖縄国際大学日本文化学科 山口真也

配付資料3＜事例1＞『やってらんねえぜ！』（秋月こお・こいでみえこ著，徳間書店，1998）に登場する図書館員の行動について、ご意見をお聞かせください。（番号に○をつけてください）

(1) 事例のように、児童生徒の図書館利用において心配な行動が見られた場合、あなたならどうしますか？（事例に登場する図書館員の行動に賛成ですか？空欄に理由をご記入ください）

- 1) 賛成      2) 反対

(2) 事例1のように、児童生徒の図書館利用において、生活指導上、心配な行動を察知したことはありますか？

- 1) ある      2) ない

(3) (2)において「1)ある」と回答された方へ質問します。具体的にどのような行動でしたか？回答できる範囲でお答えください。（空欄にご記入ください）

(4) (2)において「1)ある」と回答された方へ質問します。その際、どのように対応されましたか？回答できる範囲でお答えください。（空欄、裏面ににご記入ください）

(5) 児童生徒の利用行動を図書館外部の学校内の第三者(担任・養護教諭等)に報告する場合の、規則、マニュアル等は作成されていますか？（あれば空欄、裏面にご説明ください）

- 1) ある      2) ない

学校名	( )小学校・中学校・高校
氏名	

不都合がなければ、学校名・氏名をご記入ください(無署名でもかまいません)。

<自由記入欄> 学校図書館と「図書館の自由」について、ご意見をお聞かせください。